

令和4年度 授業改善推進プラン

瑞穂町立瑞穂第一小学校

1 授業改善

	児童の学習上の課題	授業改善の取組
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・町学力調査では、「読む力」の3・4年平均正答率が61.1%となっている。文章をスムーズに読むことができない、問題に正対した答え方が分からない、語彙が不足して内容を読み取ることができない等の課題がある。 ・町学力調査では、「書く力」の3・4年平均正答率が46.15%となっている。目的に応じた内容を作文する力、聞かれていることに正対する文章の書き方、豊かな語彙に基づく作文の力を育てたい。 ・学力調査の「話す・聞く」では、3年生の正答率は92.6%であるが、4年生は、85.5%となっている。ポイントを絞って聞いたり話したりする力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で音読の機会を必ず確保する。何を聞かれているのかが分かるように、ミニドリルの活用など、スモールステップを授業の中に取り入れていく。語彙を増やすために、言葉ノートの作成、辞書引き、語彙プリントの取り組みを系統的に行っていく。正確に読むための方法(サイドライン・チャート・人物相関図等)を、系統的に指導していく。 ・1単位時間の中に、自分の意見を書く時間を必ず設けるようにする。また、的確かつ豊かな表現ができるように、児童同士で書いたものを共有し、学び合えるようにする。「書きたい」と思う言語活動を、単元で設定するようにする。 ・何に気を付けて話したり聞いたりすればよいのか、相手や目的を授業の中で明確にして、指導に当たる。1対1や ・児童が問題を見出し、問題解決の見通しをもって学習に取り組めるよう、児童の問題意識や興味を引き出す資料提示をするなど、単元の導入のあり方を工夫する。 ・ICTを活用し、画像や動画を効果的に提示することで、児童が社会的事象をイメージしやすくする。 ・地図帳を活用し、学習で扱っている内容がどの地域に当てはまるのか具体的にイメージできるようにする。 ・単元のまとめでは、学習した内容を新聞にまとめるなど、学習したことを児童が自分の言葉で表現し、学習全体を振り返る時間を設ける。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや統計などの数値の変化に気付き、社会的事象と関係づけて資料を読み取ることができない児童が多い。 ・進んで問題解決をしようとする主体的な学習への取り組みが見られる児童は少ない。 ・社会や生活経験が乏しく、社会的事象をイメージしにくい児童がいる。 ・授業で学習した内容が、知識として定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解が不十分な単元について補習をしていく。また、家庭学習やパワーアップタイムを活用し、既習事項を定期的にくり返し復習させる。 ・なぜ間違えたのか、考えながら「直し」をさせることで、ケアレスミスに気付き、次は気を付けようと自覚を持たせていきたい。東京ベーシックドリルやくり返し計算ドリルなどで、くり返しの学習反復練習をさせていく。 ・3学年は時間や量の『単位換算』を重点的に指導していく。4学年は筆算で正しく位取りができるよう繰り返し、計算問題も行う。3・4年生は測定の領域に力を入れて指導をする。 ・5学年は基本的な計算につまづいている児童が多いため、日々の宿題やパワーアップタイムで既習の計算などを徹底的に練習する必要がある。第6学年では、図形や角の単元を重点的に指導していく。それぞれの学年の課題に合わせて、練習を行い、定着度をベーシックドリルの診断テストで確認する。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ・町学力調査では、3・4年生の知識・技能が76.2%の正答率となった。町の平均は73.3%で2.9%高い。思考・判断・表現は43.2%の正答率で、町の平均は35.1%で8.1%高い。よって、今回の町学力調査では町の平均より高い結果となった。領域でいうと『測定』が平均を下回る結果となった為、しっかりと指導をしていくことでさらに力が伸びると考える。 ・6年全国学力調査では、昨年度に比べてA層が10%減少している。これは学年全体として生活面での課題や学びに向かう姿勢、学習意欲の面で課題が大きい。また、無回答の児童もとても多い。 ・6年は図形の領域の点数が大幅に低く、図形に対する苦手意識があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を行う前に結果を予想させる時間を設け、自分の理由も言えるように指導する。また、実験の結果の考察させ、考えをノートに書いたり、人に伝えたり、発表したりしていく。 ・全員が実験器具の操作を体験できるように工夫していく。(温度計、方位磁針、星座早見表、実験用ガスコンロ、顕微鏡など) ・理科の学習で身の回りの事象現象や実生活と結び付けて考えさせる。(瑞穂町で雨水がたまりやすく通れなくなる場所はあるのか・・・4年 瑞穂町で地層が見られるところはあるか。・・・6年生 ・単元の導入時に、興味・関心をもたせるような簡単な実験や実験器具、写真や動画等を提示する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技能に比べて思考力、判断力、表現力が苦手である。 ・観察、実験における記録の書き方、器具の操作が身につけていない児童が多い。 ・理科での学習で身に付けた力を生活の中で生かすことができていない。 ・主体的に課題や問題を見つけたり、問題を解決したりしようとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を行う前に結果を予想させる時間を設け、自分の理由も言えるように指導する。また、実験の結果の考察させ、考えをノートに書いたり、人に伝えたり、発表したりしていく。 ・全員が実験器具の操作を体験できるように工夫していく。(温度計、方位磁針、星座早見表、実験用ガスコンロ、顕微鏡など) ・理科の学習で身の回りの事象現象や実生活と結び付けて考えさせる。(瑞穂町で雨水がたまりやすく通れなくなる場所はあるのか・・・4年 瑞穂町で地層が見られるところはあるか。・・・6年生 ・単元の導入時に、興味・関心をもたせるような簡単な実験や実験器具、写真や動画等を提示する。
各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科…身近な自然の観察や、季節や地域の行事、施設の違いや特徴を見付けることはできても、自分や社会との関わりや支えている人々について気付き、大切にしよう、自分の生活に生かそうとすることは難しい。 ・音楽科…音楽に合わせて体を動かしたり、楽器に触れて演奏することが好きな児童は多い。コロナ禍での歌唱活動が続いたため、歌うことに抵抗がある児童や、声を出すことに恥じらいを感じている児童がいる。 ・図画工作科…用意されている中で楽しんで活動することは十分にできているが、自分のこだわりをもったり、完成度を高めたりする力はまだ弱く感じる。ジャンルや扱う材料・用具によって得意・不得意が分かれることも見られる。 ・家庭科…基礎的な知識や技能の定着、学習したことを自分の生活に生かす力には個人差がある。 ・体育科…昨年度の体力テストの傾向から、投げる力、持久力が不足している。また、新型コロナウイルスによる運動制限により、全体的な体力が低下している。 ・外国語科…リスニングの力はこれまでの外国語活動での学習によって身に付いている児童が多いが、長い会話になると必要な情報を聞き取れない姿が見られる。また、話すことに抵抗や苦手意識がある児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語科…英語でコミュニケーションをとる活動を積極的に設定し、英語で話したり発表したりすることに慣れ親しませる。単語や会話表現に関したキーワードゲームなどを行いながら、英語の音に親しませる。リスニングの際には、「文を区切って意味を確認する」「ALTを活用し、会話の内容をゆっくりと発音してもらう」などして会話のやり取りに慣れさせるようにする。 ・生活科…生き物や植物の観察だけでなく、世話について学級で考え、少人数グループごとに行うことを通して、生き物への親しみと大切にしようという態度を育てる。自分達で、関わりの深い場所や店、施設について考え、計画を立て見学、インタビュー等を行うことで、支えている人々について多くのことを気付かせる。 ・音楽科…低学年は、リトミックを取り入れ、さらなる自己表現力を高める。高学年は、器楽活動への意欲をさらに高めるために、『個人がらばり表』を作成して、一人一人が『できた』を感じられるようにする。また、グループ練習を取り入れ、児童同士の学び合いの場を設ける。歌唱においては、マスクをしていても表情豊かに歌えるよう指導する。 ・図画工作科…自分の作品に感じたこと、考え出したことを大切に『心を込めた作品づくり』をするように意識をもたせる。粘り強く表現手段や方法を工夫させて、出来上がった時に達成感を感じられるように、振り返りカードに頑張ったことなど感じ取ったことを記入する。 ・家庭科…学習したことを生活のどの場面に、どのように活用するのかを具体的に考えさせながら学習を進めていく。 ・体育科…ゲームの指導だけでなく、ボールの投げ方や投げる時の体の使い方等を、丁寧に指導する。持久力については、マラソンや短縄等を奨励し、全体で体力向上に努める。新型コロナウイルスによる活動制限については、解除が進み次第、順次活動の幅を広げていく。

2 家庭学習

<p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な家庭学習となる宿題への取り組みを定着させるために、より学校と家庭が連携できるようにする。家庭で取り組みやすい内容にしたり、取り組み方を事前に連絡したりして、協力を要請する。また、日々の連絡や面談等で挙げた家庭学習の課題点を、改善した手立てを図る。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で既習事項について復習できる課題に取り組ませ、基礎基本の徹底を図る。また「学びのテーマパーク」や自主学習ノートで、児童自身が見付けた課題について調べた内容をノートにまとめ、思考・判断・表現の力を養う。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の宿題を通して、既習事項の基礎基本の内容の定着を図る。また、中学校に向けて自主学習ノートを活用して計画的に家庭学習に取り組ませることにより、自身の課題を把握し、適切な学習課題を決めたり、自ら計画を立てて学習に取り組んだりする力を養う。
--

3 カリキュラムマネジメント(「ふるさと学習 みずほ学」やその他 教科等との関連)

<p>【「知る」学び】</p> <p>東京狭山茶(生活科・総合的な学習の時間) 瑞穂っていいな(総合的な学習の時間) 宇宙の学習(IHIとの交流)(理科)</p> <p>【「かかわる」学び】</p> <p>もっと町の人となかよくなる(生活科) 町議会への要望・みずほ小中学生議会(国語) 青少年の主張大会(町のことを考える)(国語)</p> <p>【「する」学び】</p> <p>みずほカルタ(総合的な学習の時間) 花植え活動(総合的な学習の時間) 地域安全マップ作り(総合的な学習の時間)</p> <p>瑞穂検定に挑戦しよう(ふるさと学習・学びのテーマパーク)</p>
